

## 平成 26 年度アジア大気汚染研究センター一般公開開催報告

2014（平成 26）年 8 月 7 日（木）に、アジア大気汚染研究センター（ACAP）は、隣接する新潟県保健環境科学研究所と合同で一般公開を開催しました。

“未来の研究者たちへ”と新潟市内の小学生に呼び掛けて、午前の部、午後の部合わせて 32 名（同伴者を合わせると 54 名）の参加者が集まりました。

当日のプログラムでは、地球環境問題やアジア地域の大气汚染問題の概説と ACAP の活動紹介に続き、白衣に着替えた参加者は水の pH 測定を体験して酸性雨のことを学び、電子顕微鏡でミジンコや微小粒子状物質（PM2.5）を見て、PM2.5 の説明を聞いて採取装置の仕組みを学んだり、日本国内に数台しか設置されていない黄砂測定機（ライダー）を見学してその仕組みや黄砂のことも学びました。



地球環境と東アジアの大气汚染問題について概説し、ACAPの活動を紹介しました。



雨や市内の河川水、海水の酸性度の測定を体験し、酸性雨のことを解説しました。



電子顕微鏡のデモンストレーションで微小粒子状物質やミジンコを観察しました。



微小粒子状物質（PM2.5）を解説し、採取装置（サンプラー）の仕組みを紹介しました。



黄砂測定装置（ライダー）を見学し、その仕組みや黄砂のことを紹介しました。



中国から着任している霍銘群（フォ・ミンチュン）研究員が参加証を渡しました。